

令和2年度

全中道研 会報

No. 5

令和3年3月8日

全日本中学校道德教育研究会

【役員・理事会報告】

事務局長 月田 行俊

令和3年2月27日（土）午後1時より、
オンラインによる役員・理事会を行いました
ので報告します。

<主な内容>

- あいさつ（会長・来賓）
- 自己紹介
- 議事・報告
 - ①令和2年度事業報告及び決算中間報告
 - ②全中道研高知大会についての報告
 - ③令和3年度事業計画及び予算案
 - ④全日本中学校道德教育研究大会の
今後の予定
 - ⑤道德実践事例集第8集
 - ⑥令和3年度組織
 - ⑦その他

1 会長あいさつ骨子

一同に会して対面で行う会議ができず今日
に至っている。本日もリモート会議ではある
が、皆様とお目にかかって会長として話をす
ることができ、大変嬉しく思っている。

今年度は、全中道研会報の発行回数を増や
した。その中でコロナ禍ではあるが全中道研
の今年の方針について3つの柱を立てて、紹
介した。それは、「ブロック・地区とのさらな
る強化・連携」、「組織の活性化・連携によ
って道德教育を今まで以上に発展させる」、「デ
ジタルコンテンツを有効活用したハイブリッ
ト的な取組の推進」である。コロナだからで
きないではなく、コロナの中でどのような取
組をしていくかが重要だと考えている。具体
的には、このコロナ禍で副会長と連携を図り、
数回の副会長会を Zoom で行ってきた。意見交

換の中から、それぞれの地区の現状を知り、
道德科発展のために今、我々が行うべきこと
を確認し合った。止まらずに少しでも前に進
もうと気持ちを高め、連携していこうという
気持ちを副会長全員で感じることができた。
また、会報を通じて、ブロックの様子を発信
した。

全国大会高知大会は中止となったが、高知
県独自に大会を考え、そこには教科調査官も
参加し、勇気づけられた会となった。また、
大会紀要も作成していただいた。全中道研と
してはコロナに対する不安はありながら、沖
縄大会に向けた準備を沖縄県の実行委員会と
ともに連携を図りなら進めているところであ
る。

コロナウイルスのような不測の事態に備え、
ホームページの充実も図った。会員の皆様が
情報を得られるよう、ブロックごとに情報を見
られるサイトを作ったり、会員のみが見られ
るサイトも立ち上げたりした。コロナ禍で
一堂に集まることができない中でも大会を
実行するための方法を様々考えた。チャット
を活用した方法もその一つである。

このような取組が上廣倫理財団、石橋財団
から高く評価された。財源が少なくなり、大
会を開催することが難しい中で、上廣倫理財
団や石橋財団からのご支援については、大変
ありがたく感謝している。

今後は、これまでの方法と新しい在り方を
融合したハイブリッドな方法で、全中道研と
しては全国の皆様と道德教育発展のために会
長として先陣を切り事務局と協力しながら会
の運営を行っていく。皆様のご協力のもと全
中道研は発展する。今まで以上のご協力をお
願いしたい。

2 来賓あいさつ

(1) 顧問 第27代会長 鈴木明雄 氏

コロナ禍の大変な中で、沖縄大会を実施していただけたということは伝統の火が消えなかったと心より感謝している。沖縄大会の実施は全中道研にとって夢であり使命であった。道徳の教科化についても多様な取組がなされ、小中ともに素晴らしい成果が上がりつつある。

National Sekyurity Law (国家安全法) といった法律は日本にはないが、先日、小学6年生と中学1年生が、社会科等で世界各国の安全法を比較検討し、道徳科で「外出禁止か自粛か?」と、考え、議論する授業があった。

8割が自粛でよい、我々日本人は自粛でやっていけると主張し、2割は法律を作るべきだと述べていた。今の児童生徒は主体的でなかなか良い雰囲気と思った。リモートでも理事の方々のお力で、各大会は必ず成功すると信じている。

(2) 相談役 柴原弘志 氏
お久しぶりです。

今回の道徳の教科化に当たっては、ご承知のように、量的課題と質的課題が確認され、その課題克服に向けた取組が全国津々浦々において日々展開されてきている。教科書の無償配布の意義は大きく、全国を回っていても訪れた学校すべてにおいて道徳科の標準授業時数の確保は当然のこととして受け止められる状況となってきた。子供たちの権利として当たり前であるはずのことが、実は多くの学校ではこれまで、特に中学校においては長きに渡り実現されてこなかったという事実の存在を、知っている私たちだから故に、これからのためにも、そのことを忘れないでおきたいと思っている。

道徳の教科化に伴って、「評価なんて、どうすればよいのか」から始まった学校現場の声は、今や「目の前の生徒が意欲的に取り組み、より深い学びを得られる発問や学習活動をど

のように創ったらよいのか」という声に主役の座を譲った感がある。その答えは、「指導と評価の一体化」、いわゆる評価の方から指導を考えようとする実践にこそ見いだされるのだと考える。最近、「道徳バブル」などという言葉も学会等の会合や教育関係者の間からは漏れ聞こえてくる。一時期の道徳教育、とりわけ道徳科における評価や質の高い学習指導の在り方を求める姿勢の熱が少し冷めてきているのではないかという声である。また、教科書にある指導書通りの授業をなぞっていればよい、あるいは特定の授業論(紋切り型)が何の評価もなく続けられるだけという形で、道徳の授業の特質や本質が理解されず、深い学びの手応えが感じられないまま授業が繰り返されているといった実態も見えてきている。

用意されたplanはありdoは行うが、check(評価)とaction(改善)が行えていない実態があるのではないかと。評価については、対生徒に対する評価に関しても、評価の視点は解説書に7項目が示されたことによって、より具体的な評価が可能になり、多くの学校でその実践の蓄積もされてきている。

評価は、その内容をフィードバックすることによって評価の意義そのものが実現される。年に1~3回といった通知表への評価記述の機会よりもはるかに日々の道徳の授業の中で、どんな言葉かけができるのか、ワークシートの返却時にどのような評価のフィードバックが行われるのか、そうした機会を十分生かされていない実情が少なくない。

全国を回っていると、教材の「事前一読・初発感想法」いわゆる中心発問等での十分な思考のやりとりができる時間の確保など、タイムマネジメントを考えた取組やローテーションならぬ「リレー道徳」というPDCAサイクルを1週間あるいは1ヶ月という短い期間で行い、より質の高い授業を展開する工夫をされている学校や地域もある。また、小中学校間で共通する重点項目に関する板書の共

有化といった取組も行われるようになってきている。

35 時間すら実践されなかったという、道徳教育上の暗い時代を知っている私たちだから故に、「夜は明ける。想いは不滅」、道徳教育充実への思いは不滅である。コロナに負けず、今後とも共々に取り組みましょう。

3 議事・報告

(1) 令和2年度事業報告及び決算中間報告

今年度はコロナ禍における取組となったため、ほとんどの事業が実施できない状況であった。その中でも、実践事例集の作成やオンラインによる会議などを行ってきた。

決算の中間報告については、事業がほとんどできなかった中ではあるが、功労者に対する表彰状や記念品の贈呈、オンラインに係る経費、そして全国的な取組を広く紹介する目的で実践事例集8集を増刷し、全国に発送する経費に充てさせていただいた(事例集の決算額は、現時点では見積額)。

最終的な決算報告については、令和3年度の第1回役員・理事会で報告する。

(2) 全中道研高知大会についての報告

10 月末に開催し、授業を見ていただきたいという強い思いはあったが、コロナにより5月に中止を決定した。大会に向けて5年前から会場校の教職員は質の高い授業を目指し、取組を積み重ねてきていたため、併せて開催する予定であった四国大会は令和3年度に延期し、第54回高知県大会は実施し、県内から約200名の教員が参加した。縮小はしたものの公開授業、教科調査官による講演という半日という日程で実現した。高知県は小中学校が同じ組織のため、同日に小学校でも開催し、それにかかった経費について決算報告書を作成した。講師謝礼や石橋財団からの助成金などの財源で大会要項を作成した。

＜(1)(2)について承認を得た＞

(3) 令和3年度事業計画及び予算案

令和3年度の役員・理事会は7月3日に計画している。感染状況なども考慮し、会場を設定するかオンラインで実施するかについては動向を注視して決定する。11月には全国大会沖縄大会を、全中道研ホームページを活用して計画している。

事業計画そのものは、例年に近い形で記載しているが、できるだけ中止しない方向で工夫した取組を行えたらと考えている。

予算案については、全国大会については、15万円を印刷製本費として助成している。しかし、関ブロ大会についてはこれまで行っていなかった。そこで、分担金として関東甲信越地区からは3,000円徴収している経緯があることから10地区分の3万円を関ブロ大会への助成として予算を組んでいる。またZoomの年間契約の費用等も盛り込んだ。

現時点では、各財団からの助成額も見込みではある。

＜(3)について承認を得た＞

(4) 全日本中学校道徳教育研究大会の今後の予定

【 令和3年度 沖縄大会 】

1次案内は全中道研ホームページ上に掲載されている。期間は、令和3年11月11日から30日まででweb開催で行う。内容としては授業を前もって撮影し配信する形で行う。課題別分科会については簡素化し、2分科会とするとともに、提案地区も組ませてもらった。参加費はなしとする。今後、分科会の提案などでお世話になる。申込については全中道研事務局と連携して行う。

スケジュールとしては5月末までに、提案を行う県等を集約し、6月10日までに提案者・助言者等を把握したい。提案原稿は10月中旬までにデータをいただければと考えている。開閉会式もPDFで行い、授業は動画、質疑応答はホームページ上で

チャット形式によって行う。調査官による講話や分科会での指導助言の配信も随時行っていく。

コメント

日付: 2021年03月01日
投稿者: 井上賢一 (山形県)
件名: 理事会ありがとうございました

先日理事会に参加させていただきました。お陰様で、令和4年度に向けて、何ができるかが少しずつ見えて参りました。沖縄の先生方、事務局の先生方のご指導をいただきながら準備を進めて参りたいと考えております。ご多用の所とは存じますが、理事会を開催していただきありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

返信

日付: 2021年02月27日
投稿者: 吉田
件名: 第3回理事会

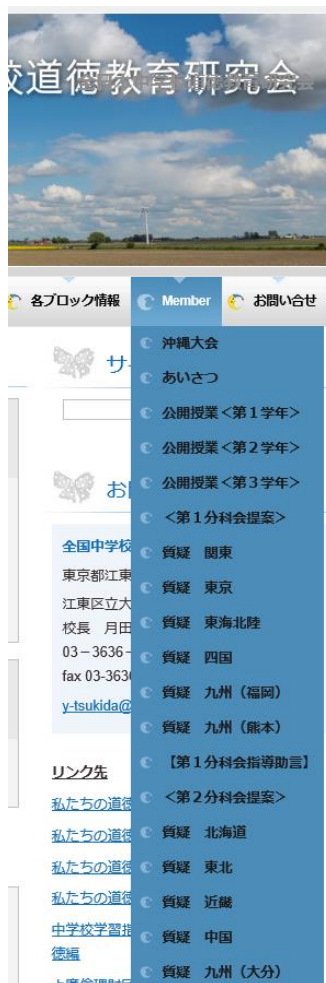
みなさんお世話になります。よろしくお願いいたします。

返信

<チャット形式のイメージ>

本来であれば、皆さんを沖縄県にお迎えしてやれば一番よいが、沖縄県も感染者数が結構多いため、このような形でできることをやっていくのでよろしくお願いいたします。

<Memberサイトのイメージ>



- あいさつ
- 公開授業
 - <第1学年>
 - <第2学年>
 - <第3学年>
- <第1文科会提案>
- 質疑 関東
- 質疑 東京
- 質疑 東海北陸
- 質疑 四国
- 質疑 九州(福岡)
- 質疑 九州(熊本)
- 【第1分科会指導助言】
- <第2文科会提案>
- 質疑 北海道
- 質疑 東北
- 質疑 近畿
- 質疑 中国
- 質疑 九州(大分)
- 質疑 九州(沖縄)
- 【第2分科会指導助言】

【 令和4年度 山形大会 】

令和4年度 11 月開催ということで準備を進めていた。本格的に準備をしなければと思っていた最中にコロナの問題が起きた。

現在では不透明なことが多すぎるため、従来通り、全国からお招きしての実施は難しいため、沖縄大会に習う形で web での開催を計画している。

沖縄大会も今後具体的につめられていくと思うので、沖縄県、事務局と連携しながら準備を進めていく。授業作りについては本市の研究会を中心に進めている。

【 令和5年度 北海道(函館)大会 】

日程は、11 月 1 日・2 日で考えている。メイン会場の函館市民会館を確保できた段階で日程を正式に決定する(1 週間程度幅間もたせる)。北海道は小中合同の組織であり、小中学校同時開催となる。各授業会場・分科会会場についても 10 か所程度の会場を確保する予定である。

【 令和6年度 神奈川大会 】

今年度組織作りを進める予定でいた。令和3年度の早い時期に、準備委員会という形で組織を作ること確認している。神奈川県は3政令市と3地区の6地区で研究を進めながら県の研究をまとめていく形となっている。場所としては川崎地区で開催することは決定している。

(5) 道徳実践事例集第8集

道徳実践事例集第8集については、現在、印刷・製本作業に入っている。学校数分とまではいかないが、ある程度の部数を各都道府県に配送するので活用ください(3月上旬)。

(6) 令和3年度組織

会長・事務局長ともに、今年度に引き続

き吉田・月田で会を運営する旨提案し、了承を受けた。

（７）その他

○ 都道府県の会則の集約

各地区の会則を全中道研事務局までメールで提出いただきたい。

○ 令和３年度各都道府県代表者報告

令和３年度の組織について、７月の役員・理事会で提案し、承認を得る形となる。特に、本年度の代表者が退職・退任の場合、新年度の代表者との引き継ぎや報告が滞り、その把握に苦勞するケースがあるのでよろしくお願いしたい。なお、各地区の総会が６月に入ってから開催される地区については、内定の段階で構わないので、５月末までに情報提供していただき、変更があった場合には、その時点で決定した代表者名を改めてご報告いただきたい。

副会長（各ブロック代表）については、各地区の代表者でご相談の上、報告願います。

○ 令和３年度道徳教育推進教師育成講座

来年度の推進教師育成講座については、現在、上廣倫理財団と調整を行っている。今年度のように中止にはせず、何らかの形で行えるように検討している。詳細がまとまったら報告させていただく。

○ 2021年度 道徳教育育成助成金

助成金についても、財団からの最終的な報告はこれからである。ただ、全ての地区で助成金を申請し、地区大会を開催して若手の育成を図る計画等の準備をしていただきたい。

○ 参与名簿作成のための情報提供

副会長のうち、令和２年度をもって、副

会長職を勇退される方は、教員として現職であっても全国参与という立場で、道徳教育に関わっていただくことになる。情報提供をお願いしたい。

○ 令和２年度道徳教育育成助成 報告書提出（全中道研事務局まで）

今年度申請した、北海道、関東甲信越、東京、近畿、中国、四国の６ブロックについては報告書を提出していただくことになる（報告書はA４版両面）。成果物については、60部ということで引き継がれていると思うが、役員・理事会を東京で行った際、各地区に提供するための冊数であり、今回については事務局に10部提出をお願いしたい。各都道府県に配布することが可能であれば、それは各地区で検討の上、配布願いたい。

